

小学校

- 学級づくり
- 授業づくり
- 個別の指導計画を生かした支援
- 好意に満ちた教師の言葉がけ

小学校～学級づくり

机の中の視覚的な支援の工夫（第1学年）

【実態】

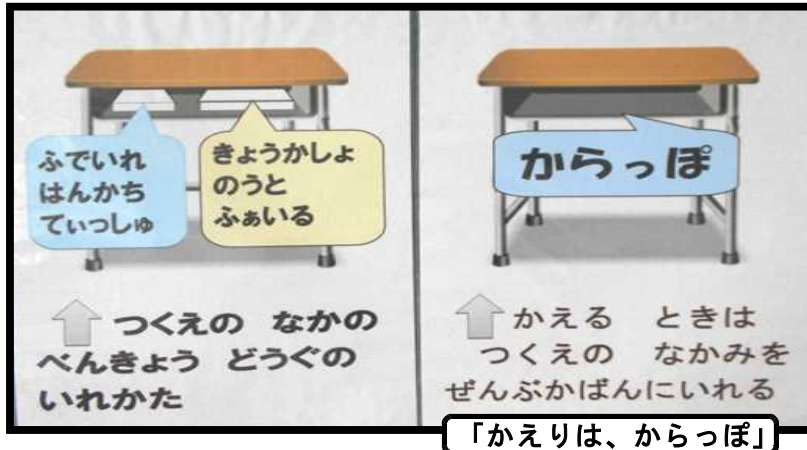
- 机の中の整理整頓がきちんとできない子どもがいました。

【背景】

- 耳で聞いても理解することが難しいことが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- 机の中を整理する習慣を付けるため、図を掲示しました。



【その時点の状況】

- 図を見て机の中の整理整頓に心がけるようになりました。また、「かえりは、からっぽ」が合い言葉になり、できるようになりました。

思いやりのある学級づくりの工夫（第2学年）

【実態】

- 相手のことを考えない言動をする子どもや、進んで学習に取り組めない子どもがいました。

【背景】

- 学級全体に、思いやりの心や学習意欲を高めたいと考えました。

【指導や支援の工夫】

- 学級全体でがんばりを見せた時、思いやりのある行動ができた子どもがいた時、「みんなのたからばこ」にシールを貼っていきます。全部埋めたら、お楽しみ会をします。



【その時点の状況】

- 集中して学習に取り組んだり、思いやりのある行動をしようとする子どもが多くみられるようになってきました。

小学校～学級づくり

友達の長所を見付ける工夫（第2学年）

【実態】

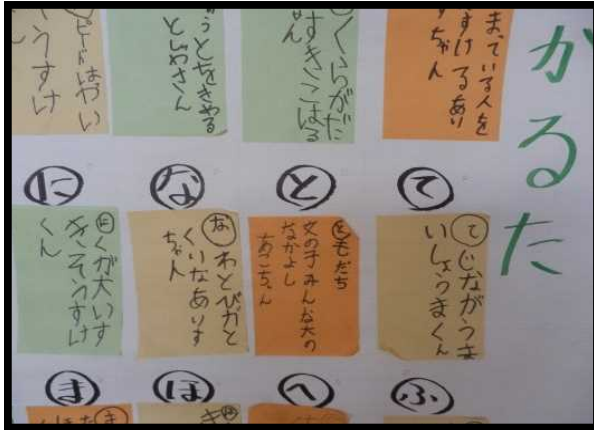
○ 友達の長所を見付けることが難しい面がみられました。

【背景】

○ 自分から友達の長所に気付く機会がほとんどありませんでした。

【指導や支援の工夫】

○ 「いろはカルタ」に、「なわとび得意な□□さん」など、友達の得意なことやがんばっていることを全員で考え、書いて掲示しました。



【その時点の状況】

○ 「いろはカルタ」なので、楽しみながら友達の長所を認める機会となり、互いに認め合う雰囲気が高まりました。

友達の長所を見付ける工夫（第4学年）

【実態】

○ 友達の長所を見付けることが難しい面がみられました。

【背景】

○ 自分から友達の長所に気付く機会がほとんどありませんでした。

【指導や支援の工夫】

○ 日直の子どもの長所やがんばったことを書いて、帰りの会で発表する機会を設定し、掲示しました。



【その時点の状況】

○ 長所やがんばっていることを認められる喜びを感じ、自分から友達の長所を認めようとする雰囲気が出てきました。

小学校～学級づくり

温かい言葉を考えさせる工夫（第4学年）

【実態】

○ ちくっと言葉を言ってしまい、友達を傷付けてしまう傾向がみられました。

【背景】

○ 自分が言った言葉で相手がどんな気持ちになるかを想像することが苦手なようでした。

【指導や支援の工夫】

○「ちくつと言葉」をなくし、「ふわと言葉」を増やす取組として、言葉を考え、掲示していきました。



【その時点の状況】

○ 掲示しておくことで、「ちくっと言葉」に気を付けて、「ふわっと言葉」を使うようになってきました。

学級の約束の提示（第5学年）

【実態】

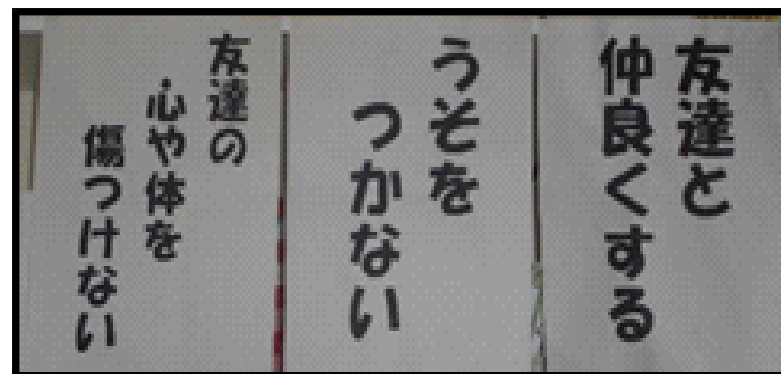
○ 1年間、クラスで取り組む約束がありませんでした。

【背景】

○ 聞くだけでは、約束を意識することは難しいようでした。

【指導や支援の工夫】

- 4月当初に、3つの約束を1つずつ提示し、全員で読んで確認しました。
- その後、教室前方に1年間掲示しました。



【その時点の状況】

○ トラブルが発生した時など、子ども同士で、必ず、3つの約束を確かめて、仲良くなるようになってきました。

小学校～学級づくり

聞くことへの集中を促す工夫（第4学年）

【実態】

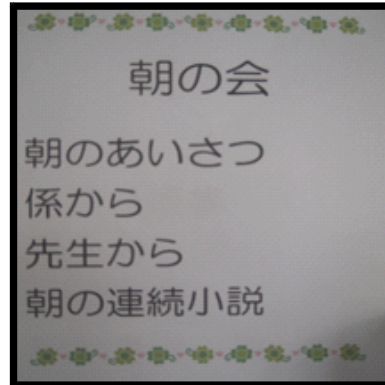
- 教室が騒がしく、全体指導が伝わりませんでした。

【背景】

- 聞くことより自分の話が優先になってしまう傾向がみられました。

【指導や支援の工夫】

- 大声を出すよりも、キャラクターを出して静かになるのを待ちました。また、朝の会では、「朝の連続小説」と称して、読み聞かせを必ず行いました。



【その時点の状況】

- 全員が聞くことに集中する心地よい時間を体感することで、聞くことを意識し、静かにできるようになりました。

掃除用具の視覚的な支援の工夫（第5学年）

【実態】

- 掃除用具を整理して収めるのが難しかったです。

【背景】

- 収め方が分からない子どもが多かったです。

【指導や支援の工夫】

- 掃除用具の収め方の写真を撮り、掃除用具入れのロッカーの近くに掲示しました。



【その時点の状況】

- いつも整理整頓できるようになりました。

小学校～授業づくり

内科健診の視覚的な支援の工夫（保健室）

【実態】

- 内科健診など、いつもと違うことがあるとパニックになってしまう子どもがみられました。

【背景】

- 見通しがないと不安になることが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- 内科健診の前に、手順をパソコンのスライドショーで見て、確かめました。

①
ほけんしつでは、
声を出さないでね。

②
やじるしどおりに
すすもう。

③
赤は「止まれ」、
前の人が
すすんでからね。

④
おいしゃさんの
前に行ったら、

⑤
「なまえ」
をはっきり
言う。

⑥
おわったら
「ありがとう
ございました」。

⑦
そっと、
ほけんしつを
出しましょう。

【その時点の状況】

- 見通しがもてたので、スムーズに健診を受けることができました。

意欲を引き出す挙手の工夫（第2学年）

【実態】

- 挙手して発言しようとする子どもが少ない状況でした。

【背景】

- 考えはあっても、自信がもてない面がありました。

【指導や支援の工夫】

- 自信があれば「パー」、少し自信がない時は「チョキ」で手を挙げるようにしました。教師は、発言しようとしたことをほめることにしました。



【その時点の状況】

- 意欲的に学習に取り組む子どもが増えてきました。

小学校～授業づくり

字の書き方の視覚的な支援の工夫（第1学年）

【実態】

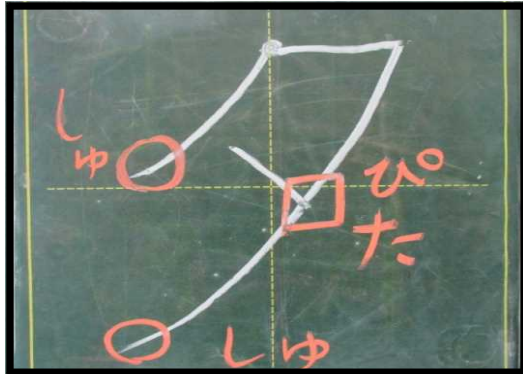
- 字形を整えて書くことが難しい子どもがいました。

【背景】

- 細部に注目したり、「はらい」などをイメージしたりしながら書くことが苦手であることが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- 鉛筆の動かし方のイメージを言葉にして、視覚と聴覚の両方から理解できるよう、筆の動きを「ぴた」「しゅ」などの音で表現し、支援しました。



【その時点の状況】

- 声に出しながら書くことで、「とめ」や「はらい」などに気を付けて書くことができるようになってきました。

課題を終えた後の指示の工夫（第3学年）

【実態】

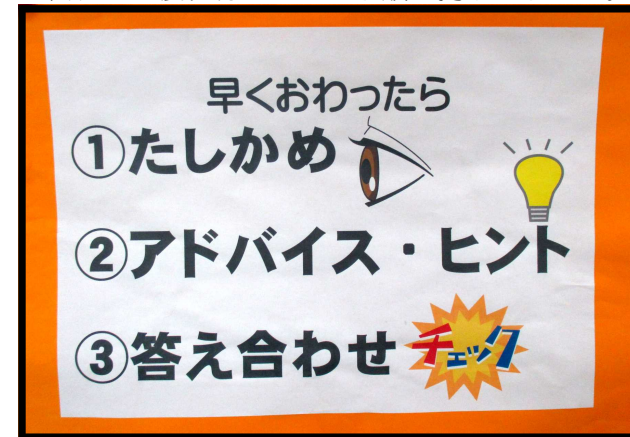
- 課題を終えた後に、騒いでしまう子どもがいました。

【背景】

- 課題を終えた後に行うことが、子どもに伝わっていなかったことが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- 課題が終わった後、行うことの手順を掲示しました。



【その時点の状況】

- 掲示を確認し、自分で取り組む子どもが多くなってきました。

小学校～授業づくり

静寂の時間の導入（第4学年）

【実態】

- 授業の導入時に集中できない面がありました。

【背景】

- 休み時間のことなどが、気になっていることが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- 授業の最初の短い時間に、「読み聞かせ」を行い、静寂の時間を導入し、心を落ち着かせるようにしました。



【その時点の状況】

- 教師が読み聞かせることにより、子どもは落ち着き、スムーズに授業に集中できるようになってきました。

教材・教具の工夫（第5学年）

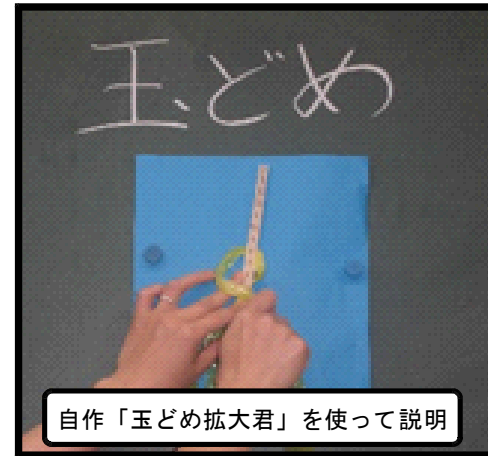
【実態】

- 5年生で初めて裁縫をするので、教科書の写真や説明だけでは、理解できない傾向がみられました。

【背景】

- 「難しそう」という気持ちが先に立ち、やる前から苦手意識が高まっていました。

【指導や支援の工夫】



- ① 教科書で「玉どめ」の手順を確かめます。
- ② 教師が右の写真の「玉どめ拡大君」（自作教具）で、やってみせます。
- ③ 子ども一人一人が、そのやり方を踏まえて机上で「玉どめ」に挑戦します。

【その時点の状況】

- 「玉どめ」が分かり、意欲的に取り組むことができました。

小学校～授業づくり

授業中の発言のルール工夫（第6学年）

【実態】

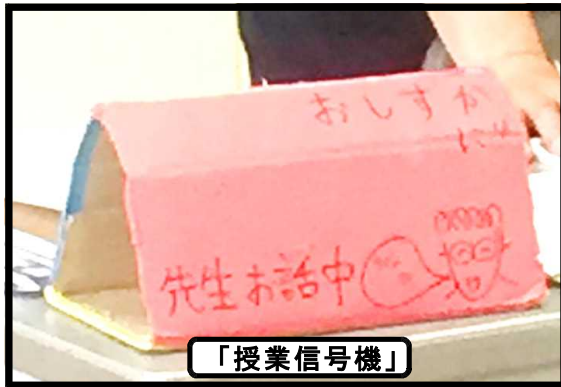
- 授業中に、いつでも自由に話をしてしまう子どもがいました。

【背景】

- 前学年で、「話す場面」「聞く場面」の区別のない授業を経験してきたことが影響しているようでした。

【指導や支援の工夫】

- 「静かに聞きます、先生お話中」を赤、「手を挙げて発言」を黄、「自由に話してよい」を青など、「授業信号機」を教卓に表示しました。



【その時点の状況】

- 授業に関係ない発言や不規則な発言がなくなりました。

指示の明確化の工夫（第3学年）

【実態】

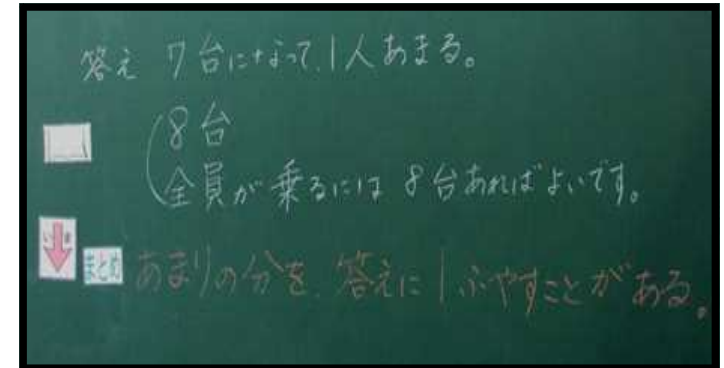
- 今、何をやる時間が、分からなくなってしまうことがありました。

【背景】

- 今、何をやる時間かの指示が明確でない時がありました。

【指導や支援の工夫】

- 板書に、「いま」を示すマークを掲示し、今は「まとめを書く時間」「教師の説明を聞く時間」など、分かるようにしました。



【その時点の状況】

- 今、何をやる時間かが分かることで、集中して学習できるようになりました。

小学校～授業づくり

机上の統一の工夫（全校）

【実態】

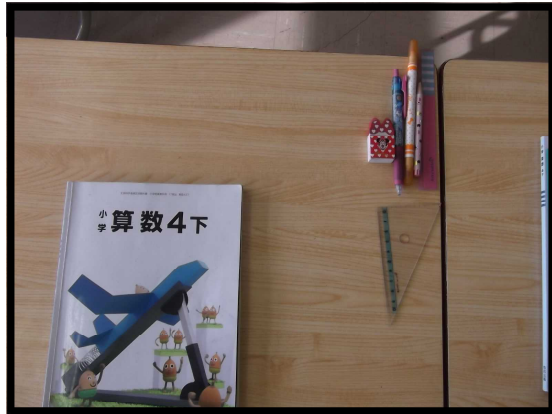
○ 机上に置く物が多く、学習に集中できない子どもがいました。

【背景】

○ これまで、机上の整理についてのきまりがありませんでした。

【指導や支援の工夫】

○ 鉛筆又はシャープペンシル3本と消しゴム1個、定規、教科書など、机上の整理を全校的に統一しました。



【その時点の状況】

○ 机上が整理され、学習に集中できるようになりました。

スケジュールの提示（第2学年）

【実態】

○ 見通しをもてず、不安になる子どもがいました。

【背景】

○ 1日のスケジュールなどを示していませんでした。

【指導や支援の工夫】

○ 1日の時間割だけでなく、その時間の主なスケジュールを示すようにしました。



【その時点の状況】

○ スケジュールを見ながら、落ち着いて学習するようになりました。

小学校～授業づくり

ICTの活用（第6学年）

【実態】

- 学習意欲が高く、全員が集中して学習に取り組んでいました。

【背景】

- 教師の指導の工夫が、子どもに伝わっていたので、さらに学習を深めることが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- タブレット端末に入力すると、大型モニタに映るICTを活用し、社会科において、ペリーが日本に来るまでの航路を考え、子ども一人一人の考えを学級全体で協議し、さらに学習を深めました。



【その時点の状況】

- 子どもたちの考えが深まり、さらに集中して取り組みました。

板書の工夫（第1学年）

【実態】

- 授業で学んだことが身に付いていないことがみられました。

【背景】

- 授業の「課題」と「まとめ」が正対していないことがありました。

【指導や支援の工夫】

- 板書に「課題」（例「大きい数を数字でよんだり、かいたりしよう」）に正対した「まとめ」（例「10のまとまりは十のくらいに、ばらは一のくらいにかきます」）を必ず板書することにしました。



【その時点の状況】

- 「課題」と「まとめ」を意識して学習するようになりました。

小学校～授業づくり

学習が遅れがちな子どもへの配慮（全校）

【実態】

- 漢字や計算が遅れがちな子どもがいましたが、放課後や休み時間等に個別指導を行うと、自尊感情が低下する傾向がみられました。

【背景】

- これまで、学習が遅れがちな子どもへの配慮について、全校的に共通理解を図っていませんでした。

【指導や支援の工夫】

- ・ 今、どこを学習しているかを確かめるよう促す。
「教科書△△ページを開きなさい。」
「四角4番を指でおさえてごらん。」と指示する。
- ・ 学習活動の終わりが分かるように指示する。
「一人で5分間考えます。」
- ・ 時には、全員にハードルを下げた問題を提示する。
「全員、□年生の学習に戻って、練習します。」
- ・ スモールステップで取組を促す。
「ここまでできたね。次は、これをやってみよう。」

【その時点の状況】

- 学習が遅れがちな子どもも、意欲的に取り組むようになってきました。

全校朝会での視覚的な支援の工夫（全校）

【実態】

- 全校集会の話を理解していない児童がいました。

【背景】

- 耳からの情報だけでは、記憶することが苦手であることが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- 全校集会の校長講話で、伝えたいことを視覚的に支援しました。



【その時点の状況】

- 話し手に注目して聞いている子どもが増え、話の内容も理解できるようになってきました。

小学校～授業づくり

時間を示す工夫（全校）

【実態】

- 時間までに行う学習活動が苦手な子どもがいました。

【背景】

- 途中の時間を示していないことにより、時間を意識できなくなっていることが考えられました。

【指導や支援の工夫】

- タイマーだと音の刺激が強いため、スクリーンにストップウォッチの動きそのものを映し出し、時間の経過が分かるようにしました。



【その時点の状況】

- 時間に気付き、時間を意識して取り組むようになりました。

認め励ます支援（第5学年）

【実態】

- 学習に自信がもてない子どもがいました。

【背景】

- その都度、取り組んでいることが、これでよいかどうか不安になる傾向がみられました。

【指導や支援の工夫】

- 一人一人をその都度、笑顔で認め、励ますようにしました。



認め励ます際、次のようなことに気を付けています。

- ・ 短くほめる
- ・ すぐにほめる
- ・ 笑顔で声をかける
- ・ 合図で承認する
- ・ 子どもの声に耳を傾ける

【その時点の状況】

- 自信をもって学習できるようになってきました。。

小学校～授業づくり

教師の表情の工夫（第1学年）

【実態】

- 教師の表情を見て、不安になる傾向がみられました。

【背景】

- 教師は子どもにとっての最大の教育環境であり、教師の言動の影響力が大きいことがあります。

【指導や支援の工夫】

- 子どもの目の高さになり、できるだけ、温かな笑顔で接しました。



温かな笑顔で接する

【その時点の状況】

- 子どもも落ち着き、教室に笑顔があふれました。

教師の指導の工夫（第4学年）

【実態】

- 授業になかなか集中できない子どもがいました。

【背景】

- 一本調子の授業だと落ち着かず、取り組みなくなることがあります。

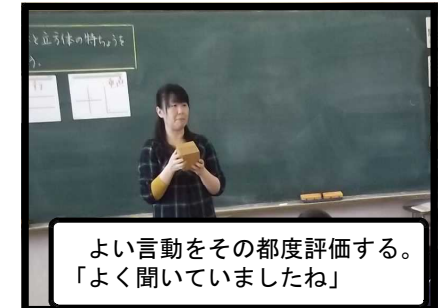
【指導や支援の工夫】

- 教師が前でやってみせたり、全員が集中するまで待ってから説明する、よい言動をその都度、評価することを大切にしました。

やってみせる



全員が集中するまで待つ



【その時点の状況】

- どの子どもも授業に集中できるようになりました。

小学校～個別の指導計画を生かした支援

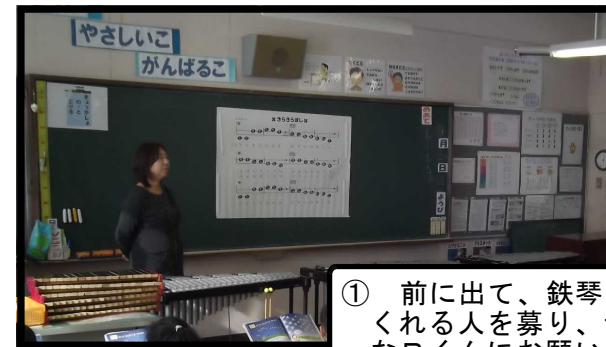
個別の指導計画(第1学年・Bくん)

子どものよさ (○) 学習や生活上、困難なこと (△)		長期目標 (1年後)	
○ 好きなことは、こだわりをもって取り組む。 ○ 音楽の楽器には興味があり、演奏は好んで取り組む。 △ 全体への指示に気付かない。 △ 好き嫌いが多い。 △ おもしろくないことがあると、教室を飛び出してしまうことがある。		・ 教師の指示にすぐ気付き、取り組めるようになる。 ・ 見通しをもって進んで学習できる。	
短期目標 (1～3か月後)	場 面	指導や支援の内容、方法	評 価
・ 1時間に1回は、全体の指示に気付くことができる。	授業中	・ 指示に気付くよう、声かけしたり、全体への指示の内容を個別に伝える。	・ 1日1回は、教師の全体への指示に気付くようになってきた。
・ 1時間に1回は、集中して学習に取り組むことができる。	授業中	・ 授業のスケジュールを知らせたり、解き方のヒントなどを助言する。	・ 見通しをもつことで、少しずつ集中できるようになってきた。



よさを生かした支援

【指導や支援の工夫】



① 前に出て、鉄琴を演奏してくれる人を募り、音楽が好きなBくんをお願いしました。



② 前に出て、鉄琴を演奏し、全員をリードしてくれたBくんのよさを全体の前でほめました。友達からも称賛の声があがりました。

【その時点の状況】

○ 教師や友達に認められたことで、安心感をもち、安定して学習できていました。

小学校～好ましくない言葉がけを好意に満ちた言葉がけに変える例

	好ましくない教師の言葉がけ	好意に満ちた教師の言葉がけ
1	「はやく、最後までがんばりなさい」	「ここまでよくがんばったね。もう少しでゴールだよ。」
2	「低学年のお世話、まあまあ、がんばったね！」	「お世話、上手にできたね！△△さんも〇〇さんのこと、やさしいお姉ちゃんって言ってたよ。」
3	「なさけないよ。もう高学年なんだからね。」	「周りのお手本になってくれるとうれしいな。」
4	「姿勢が悪いぞ。」	「〇〇君、よい姿勢だね。だから読みやすい字が書けるんだね。」 「正しい姿勢を覚えていますか？みんなで確認してみよう。」
5	「前も同じことしてたよね。」	「〇〇まではできているね。次は□□をがんばろう。」
6	「何回言ったら分かるの？」	「やることを忘れてしまった子がいたら、教えてあげてね。」 「どうやったらできるようになるか、一緒に考えよう。」
7	「うるさい！」	「聞くことに集中しようね。」 「〇〇君の聞き方がとってもすてきだね。」
8	「何でそんなことするの！」	「理由があったんだね。先生、聞くよ。君のこと知りたいな。」
9	「その小さな声だと、聞こえないよ。」	「とってもいい考えだね。みんな聞きたい考えなので、伝えてあげてね。」
10	「話を聞いてないから、分からないんですよ。」	「周りの友達を見てみようか。」 「聞き上手の〇〇さん、もう一回言ってくれるかな。」